

多くの人を幸せにしたい



得意なことや社会に貢献する

あの日から、

それぞれの人生を奏でた15年

そして、これからも



東日本大震災発生から15年がたった。震災当時0歳だった子どもたちが15歳となり、中学校を巣立つ。時に迷い、戸惑いながらも、ひたむきに歩んできた日々。「なりたいたい自分」を思い描き、新たなステージへと向かう背中をそっと押したい。15年前、中高生だった若者たちは歳月を重ね、30代の大人になった。夢と現実の間で揺らぎつつ「なりたいたい自分」になった先輩たち。その姿を通じて15歳へのメッセージを贈る。あの日から16回目の春。それぞれの人生の来し方行く末に思いをはせ、新たな一歩を踏み出そう。



ふるさとを元気づけたい

# Contents

chapter #01 明日の音色をつづるペン先

chapter #02 はらかな夢への道 その一步を今

chapter #03 積み重ねた努力が生む 明日への力

chapter #04 仙台から世界へ羽ばたく

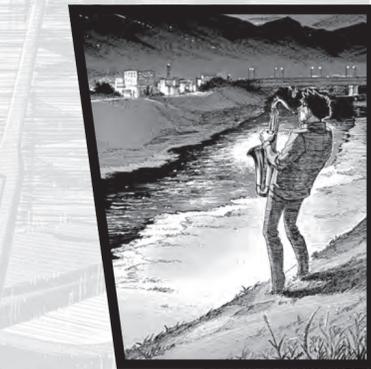
chapter #05 石巻に響く元気な音楽

表紙/裏表紙  
漫画『BLUE GIANT』の作者  
石塚 真一さんによる特別描き下ろし

※過去の写真は本人提供です

# #Prologue BE WHO YOU WANT TO BE

なりたいたい自分に



©石塚真一/NUMBER 8 / 小学館

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)



小学館の漫画誌『ビッグコミック』で2013年連載開始。中学の時、友人に連れられて見に行ったジャズの生演奏に魅せられた仙台出身の宮本大が、世界一のジャズプレーヤーを志す物語。ジャズ愛好者や仲間らと出会い、粗削りながらもテナーサクセス奏者としての才能を磨き、成長する。

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

「世界一のジャズプレーヤーになる」。人気漫画『BLUE GIANT』の主人公・宮本大がたまたま口にする信念だ。仙台出身の大は15歳でサクセスを始め、高校卒業後に上京。欧州、米国へと渡り、「なりたいたい自分」を目指して突き進む。作者の石塚真一さんに作品に込めた思いや今後の抱負を聞いた。(聞き手は営業部 水野良将)

「漫画家を志したきっかけは、学生時代の友人から、考古学者の漫画『MASTERキートン』を読んで憧れて大学に入ったというのを聞いて、漫画って本当すごいなと思ってたんです。素晴らしい仕事だなと思ったのが、最初に漫画に挑戦してみたいと思ったきっかけですね。

「漫画家を続ける中で、葛藤や悩みはありますか。」  
「次の一話はどうしようか」というところから逃げられないですね。見たこともない一番面白いやつを狙うんですけど、難しいですね。

「特に作品に込めてきた思いはありますか。」  
失敗を恐れず、フィードバックをもらって、フィフティ・フィフティだとしても、やるべきことをやっていくのが、一つの大きなテーマでした。仙台編から描いてきて、逆に漫画からテーマをもらったのは出会いと別れですね。いろんな人と出会って、離れて。人と人が出会って、話なんだろうことを今感じて

「自由を感じたんです。楽器をできる人たちがコミュニケーションを取ったり、表現したり。自由な部分が多い音楽で、とても感情に訴えるのを感じたんです。一言で言うところ、「かっこいいな」と。ジャズを超えるくらいかっこいい音楽はないなと思ってます。

「仙台出身の主人公や仙台の風景を描こうと思った理由を教えてください。」  
主人公が自然の中で楽器を構えているのをとにかく描きたかった。どこにしようかとなった時に、当時の担当編集者NUMBER8さんの出身が仙台だった。土地勘もあるし、僕自身も宮城、仙台にロマンを感じていたのでも、ちょっといいぞ仙台は、という感じで始まりました。

「『BLUE GIANT』には東日本大震災を連想させる場面も出てきます。」  
震災を描いていいのか、非常に悩みました。ただ、仙台を舞台にして若者を描くとなると、震災を見たであろうということでは描かざるを得ない。NUMBER8さんに当時の話を聞き、細心の注意を払って、大が見たであろう一場面として描きました。兄貴のバイトの手伝いで急きょガソリンスタンドに行ったら、1人1000円ずつしか給油できないという状況です。

「今後、漫画家としてどう歩んでいきたいですか。」  
幸いにもいろんな人の助けを得て、漫画を描き続けてもらいました。僕が思いつく一番いい仕事に就けたなと思います。読者と会

# 明日の音色をつづるペン先

漫画家 石塚 真一さん

漫画『BLUE GIANT』スペシャルインタビュー

## chapter #01 HEARTFELT MELODY

心に鳴り響く旋律

石塚 真一(いしづか 真いち)さん

1971年、茨城県生まれ。『This First Step』で小学館新人コミック大賞一般部門に入選。『岳 みんなの山』で第54回小学館漫画賞などを受賞。2013年に『BLUE GIANT』の連載をスタートし、23年のアニメ映画化を経て、コミックスのシリーズ累計は1400万部を突破した。

広瀬川河畔での練習風景などが描かれる仙台編バンドを結成し日本のジャズクラブでの演奏を果たす東京編に続き、欧州、米国、ジャズの聖地、NYと活躍の舞台を広げていく。

